



令和元年 5 月 31 日

中部地方整備局 三峰川総合開発工事事務所
天竜川ダム統合管理事務所

美和ダムの洪水調節機能が向上します！ ～発電→治水へ、東京ドーム約2.2杯分を容量振替え～

1. 概 要

三峰川総合開発事業（美和ダム再開発）では、美和ダムの発電容量の一部（280万 m^3 ）を、洪水調節容量に振替えることにより、洪水調節機能の強化を図ることとしています。

今般、発電事業者である長野県企業局との協議が整い、令和元年6月1日より、新たなダム運用を開始する事となりました。

これにより、美和ダムの洪水調節方法が変更され、ダム下流域の洪水に対する安全度が向上します。

※東京ドーム容積：約124万 m^3 （東京ドームHPより）

今回の記者発表事項

(2)利水容量の一部振替
(令和元年調整完了)

(1)堆砂掘削(200万 m^3)
(H17完成)

(4)湖内堆砂対策施設
(施工中)

(3)-1 貯砂ダム※
(H17完成)

(3)-2 分派堰※
(H17完成)

(3)-3 土砂バイパス
トンネル※
(H17完成)

※(3)土砂バイパス施設

美和ダム

凡 例	
	洪水調節機能強化
	貯水池堆砂対策

2. 資 料

別添資料あり

配 布 先

伊那市記者クラブ、駒ヶ根市記者クラブ、飯田市記者クラブ

問い合わせ先

（三峰川総合開発事業に関すること）

三峰川総合開発工事事務所 副所長 尾畑 TEL：0265-98-2921

（美和ダムの管理に関すること）

天竜川ダム統合管理事務所 管理課長 岡本 TEL：0265-88-3729

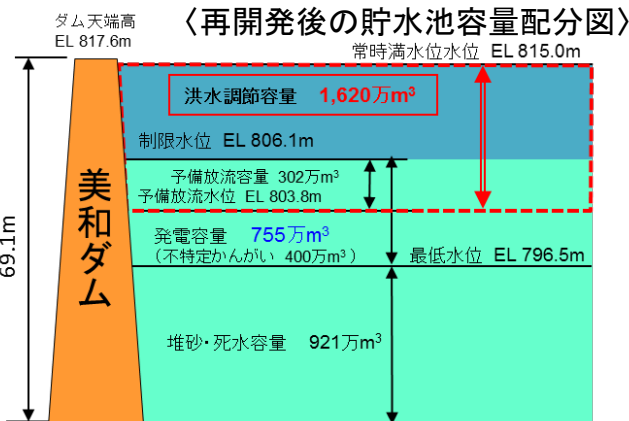
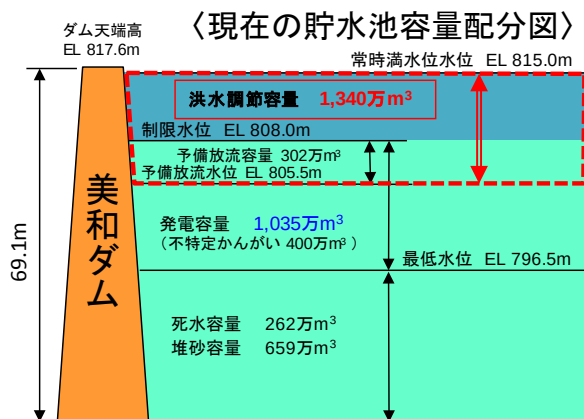
三峰川総合開発事業(美和ダム再開発)の目的及び計画内容

事業の目的

- 既設美和ダムの洪水調節機能を強化し、河道の整備と併せて天竜川上流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守る。
- 美和ダム貯水池への堆砂を抑制し、ダム機能の保全を図る。

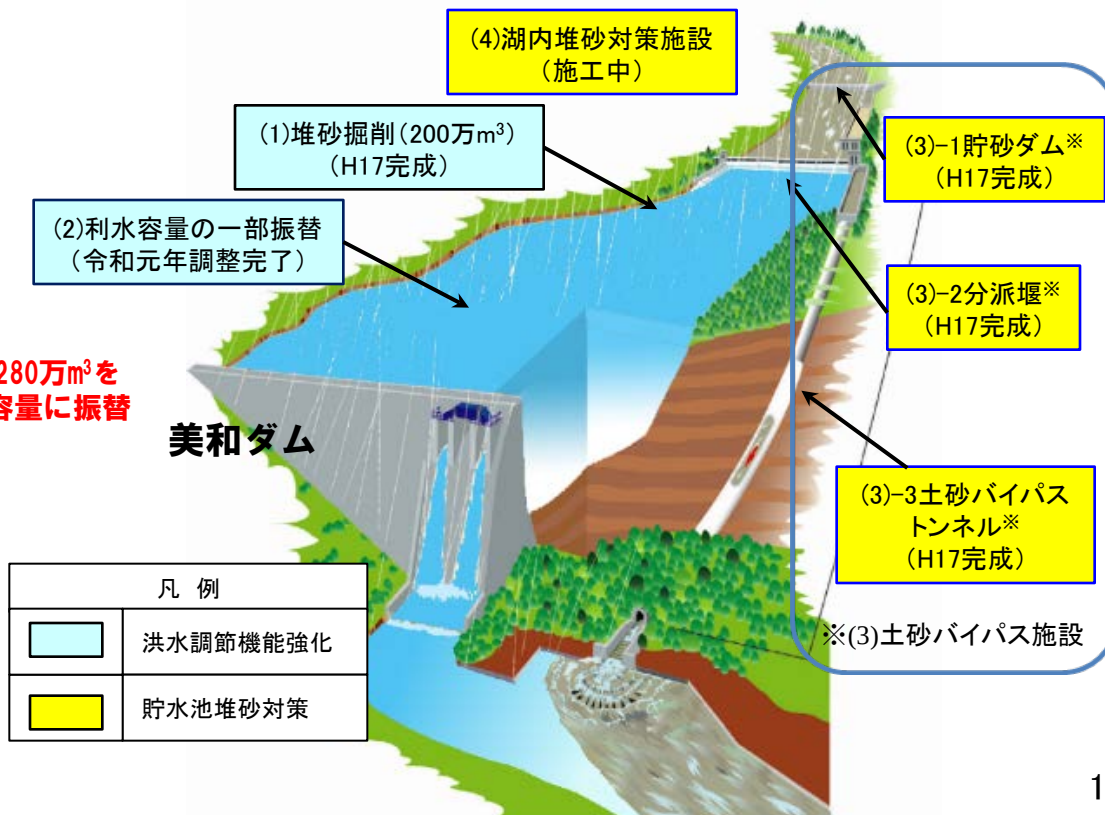
計画の内容

- 洪水調節機能の強化
 - ①「堆砂掘削」
 - ②「利水(発電)容量の一部振替」
- 貯水池堆砂対策(洪水調節機能の恒久的な保全)
 - ③「土砂バイパス施設」
 - ④「湖内堆砂対策施設」



発電容量280万 m^3 を
洪水調節容量に振替

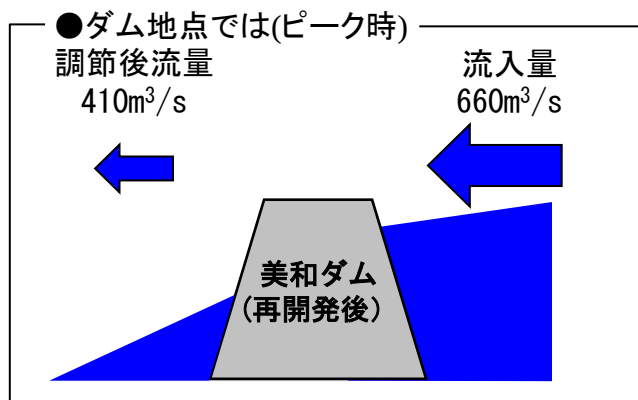
＜美和ダム再開発のイメージ＞



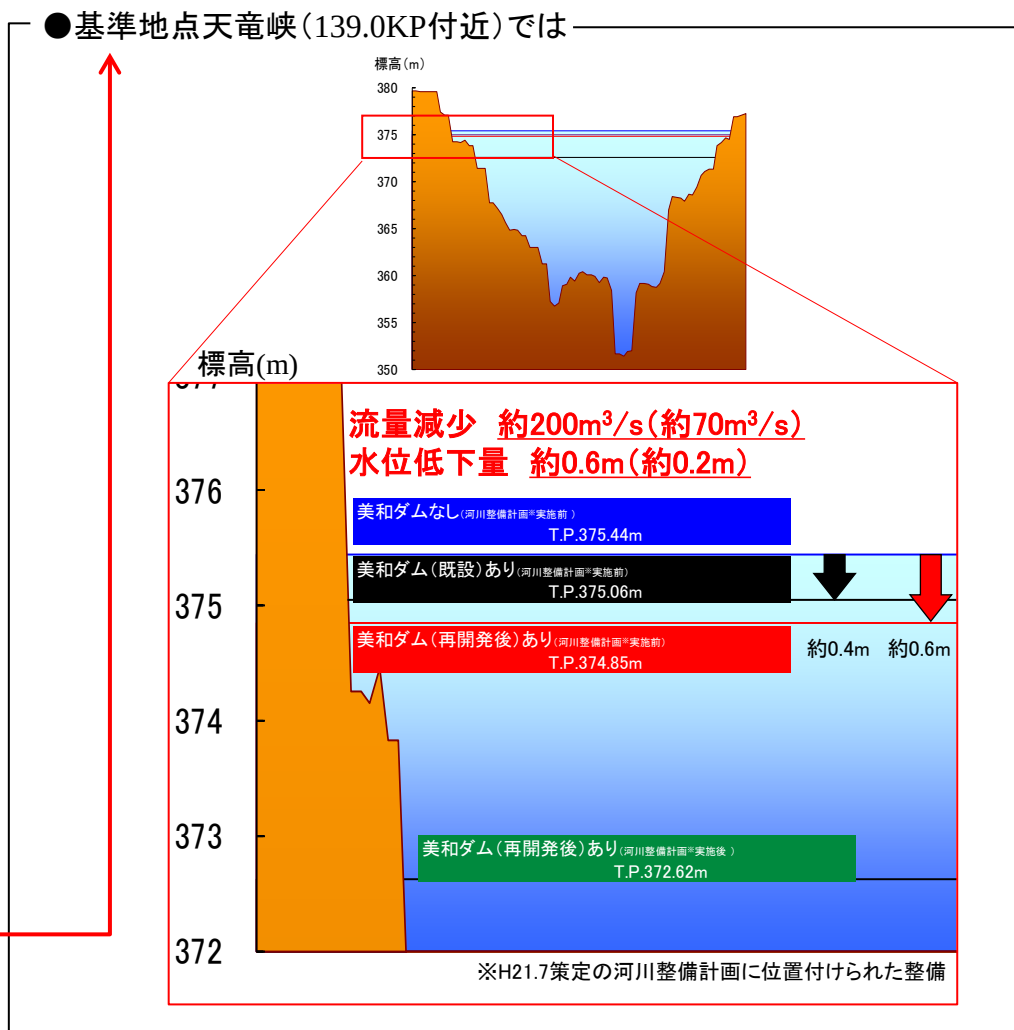
洪水調節機能の強化による治水効果(1)

■戦後最大となる昭和58年9月洪水と同規模の洪水に対して、洪水調節機能強化後の美和ダムでは、基準地点である天竜川本川の本竜峡での流量を約 $200\text{m}^3/\text{s}$ (約 $70\text{m}^3/\text{s}$)※減らすことにより、河川の水位を約 0.6m (約 0.2m)※下げることができます。 ※ () は洪水調節機能の強化分を示す

戦後最大規模相当の洪水が発生したら、

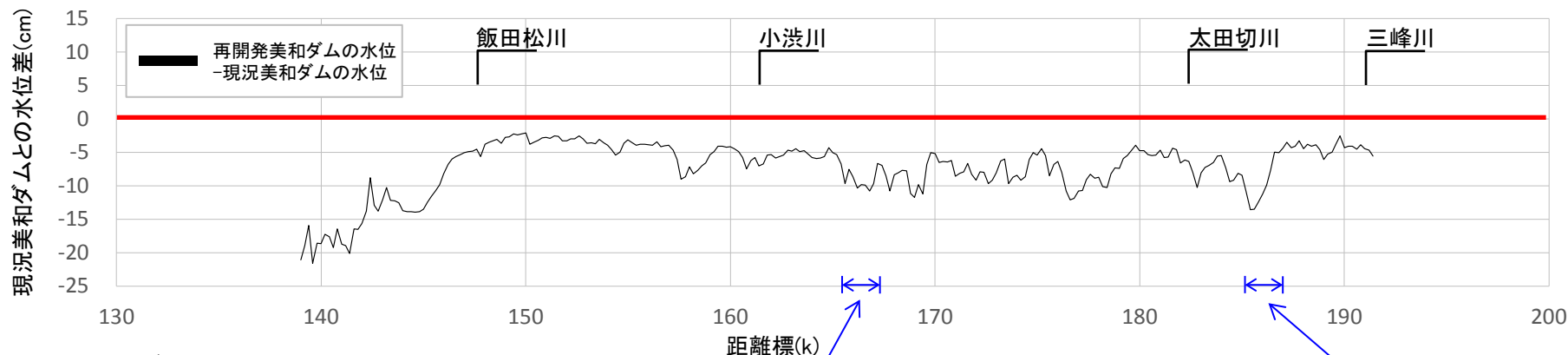


美和ダム再開発事業位置図

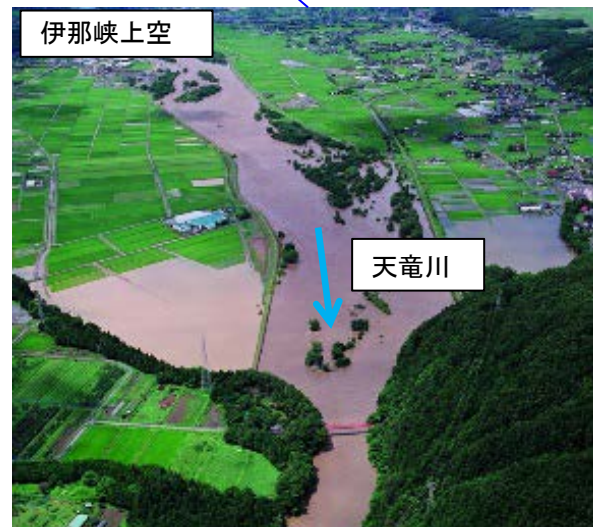
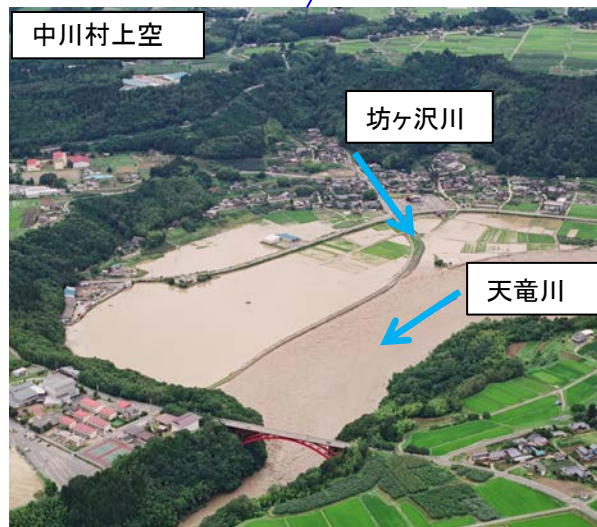


洪水調節機能の強化による治水効果(2)

- 洪水調節機能の強化により、美和ダム下流の広範囲にわたり、数cm～20cm程度の水位を下げることができます。
- H18年7月洪水において浸水被害のあった伊那峡付近(伊那市、駒ヶ根市、宮田村)や中川村付近において、浸水被害を軽減する効果が見込まれます。



美和ダム再開発事業位置図



H18年7月洪水時の状況

美和ダム操作方法の変更（操作方法変更の比較）

- 280万m³増強した洪水調節容量を活用し、小規模な洪水から大規模な洪水まで、より効果を発現させる操作方法に変更します。
- これにより、今までよりも治水安全度が向上します。

洪水調節方式の変更による比較

	洪水調節開始流量	最大放流量
現行操作	300m ³ /s	500m ³ /s
新操作	200m ³ /s	450m ³ /s
概要	今までの操作では、ダム流入量が300m ³ /s以上となった時から、流入量の一部をダムに貯留することによりダム下流の流量低減を図っていますが、新しい操作では、200m ³ /s以上から貯留することになるため、小規模な洪水においても効果を発揮します。	今までの操作では、洪水調節中にダムから放流する最大放流量は500m ³ /sとなっていますが、新しい操作では、450m ³ /sを最大とすることで、大規模な洪水においても今まで以上に流量低減を図ります。 ※異常洪水時防災操作時は除く